



『先生からの手紙 No.8』

CA卒業生の皆様へ

土木建築工学科 上俊二

【ごあいさつ】

卒業生の皆さん、こんにちは。元気に活躍のこととお慶び申し上げます。

現在、土木建築工学科（CA）の主任をしています上です。今年3月11日に東日本大震災がおこり卒業生の安否を心配しておりましたが、無事だったようで安心しているところです。3月16日に第33回卒業式・第15回専攻科修了式が行われ、卒業生46名・修了生20名が無事巣立って行きましたが、震災に関連した企業に就職する卒業生もおり、今後の成り行きを見守っているところです。また、3月末で6代目平野校長が退任され、4月より7代目井上校長が赴任されました。土木建築工学科の教員も団塊の世代の先生方が次々に定年退職され（木村先生：H19年、藤原先生：H20年、重松先生、日南住先生：H21年）、新たに西尾先生：H20年、海田先生：H21年、目山先生：H22年、が赴任されています。現在CAの16名の教員の内7名がCAの卒業生（田村、熊野（1期）、渡辺（4期）、目山（6期）桑島（14期）、島袋（16期）、海田（18期）となっています。

【土木建築を取り巻く環境の変化】

土木建築工学科を取り巻く環境も随分と変わってきました。全国の土木系学科を持つ大学高専では学科名の変更により「土木」がついた学科が少なくなってきましたが、昨年度ついに徳山だけが、全国高専中で唯一「土木」がついた学科になりました。本校も数年前に学科名の変更を議論したこともありますが、今となってみれば「土木建築工学科」の学科名はシンプルで学科の内容もわかりやすく、個人的には今後も変更しない方が良いのではないかと思います。

【CAの就職・進学】

最近3年間のCA本科卒業後の進路は進学が約6~7割、就職が3~4割となっています。10年前と比較して進学と就職の割合が逆になる傾向です。企業別ではゼネコンへの就職が減り、JR、電力会社、ガス会社などのインフラ系の企業への就職が増えています。また、公務員については県庁、市役所などにコンスタントに就職しています。

本校に専攻科が出来て16年目になりますが、平成15年からJABEEの認定校になり、

専攻科終了時に技術士補の資格が得られるなどメリットが多く、専攻科へ20名程度が進学しています。昨年度は専攻科修了生が多く進路先が心配されましたが、進学（大学院）へ6名、民間企業へ4名、公務員に9名と順調に決めてくれました。

※詳細はCAホームページをご覧ください。<http://www2.tokuyama.ac.jp/ca/>

【新たな教育システムの取り組み】

CAでは3年前より新カリキュラムへ移行を行っており、現在3年生までが新カリキュラムで教育を受けています。従来、4年次より土木コースと建築コースに分かれていましたが、新カリでは土木・建築のコース分けをせず全員同じ教育を受け、卒業時には全員が二級建築士受験資格を得られます。また数年前より、卒業後の進路がスムーズに決まるように、4年次より進路別（民間企業就職、公務員就職、進学）のグループに分けて指導をおこなっていますが、来年度は更に充実した進路指導の強化に向けて検討中です。

【同窓生の支援と協力に対するお願い】

なお、開校後38年目の春を迎え、初期の卒業生は50歳を超え、重要な役職を任されておられることと思います。CAではOB、OGの卒業後の状況（動向）を調査して、在校生の進路指導、キャリア教育に生かしたいと考えております。後日、調査協力をお願いすることと思いますがよろしくお願ひします。最後になりましたが、卒業生の皆さんの益々のご活躍を祈念いたします。

以上